

会 議 録

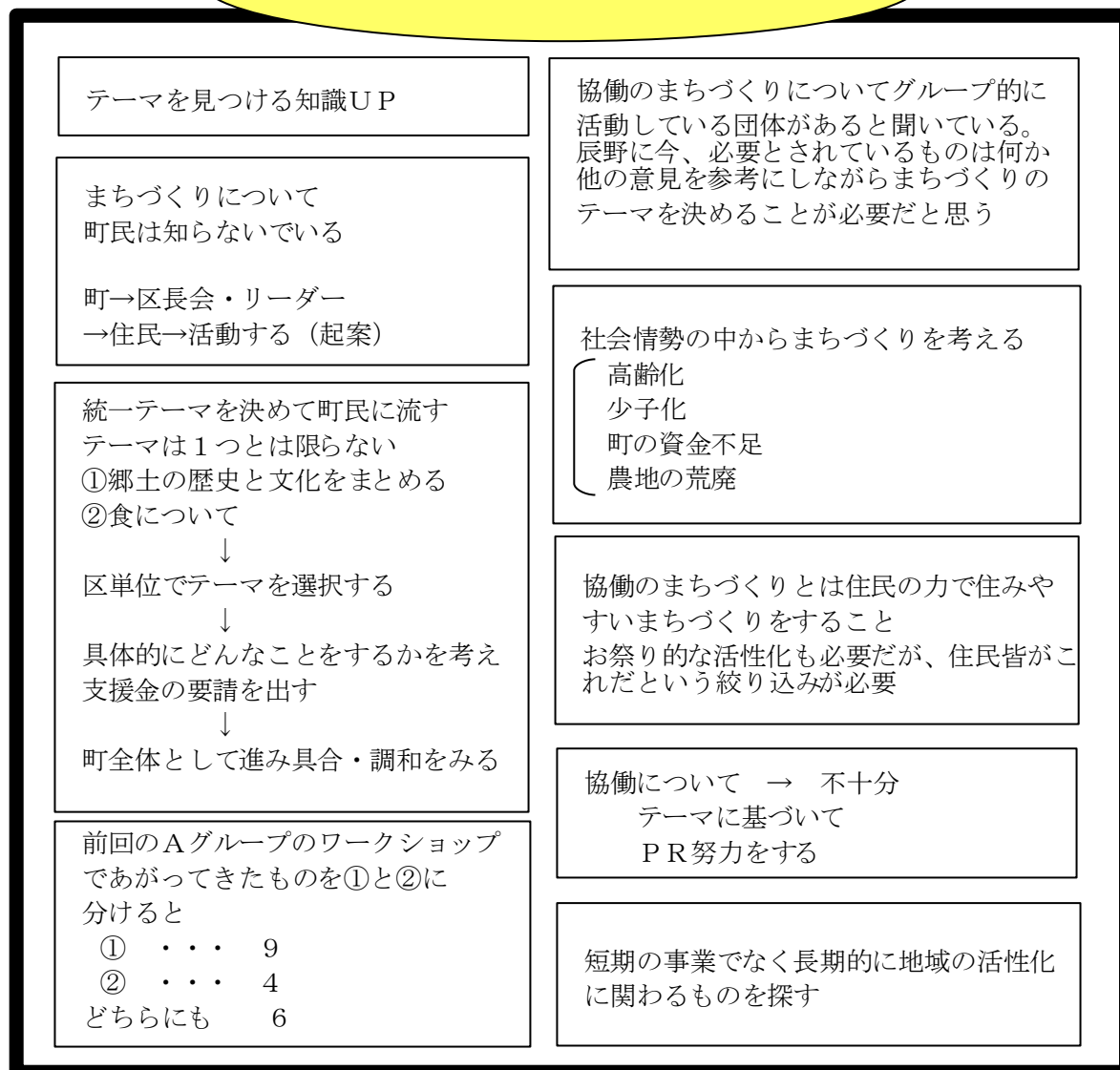
会議名	第4回まちづくり委員会		
開催日時	平成20年5月29日(木) 午後6時30分～8時30分		
場 所	消防署小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 垣内勝司、根橋久子、野沢宏明、牛丸喜美子、小澤一智、三堀善業、原美子、遠藤清文、倉田英勇、熊谷久司、赤羽武栄、山寺恭子、中谷一美 (町) 宮原(修)、宮原(利)、翠川	出席人数	
		委 員	13人
欠席者 (敬称略)	(委員) 小林代治	町	3人
		計	16人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1) ワークショップ テーマ A「協働のまちづくりの課題を見つけよう」 テーマ B「協働を理解するためには何が必要か？」 (2) 次のテーマについて 4. その他 5. 閉会		
資 料	(事前配付資料)・斜面(信濃毎日新聞からピックアップ)		
会議結果	○ワークショップ結果(別紙1・2) ○次のテーマについて 「今、何をすべきか」 ○次回委員会 平成20年6月30日(月) 午後7時00分～		
発言者	発言の内容		
	開会		
委員長	あいさつ ・配布資料(信濃毎日新聞「斜面」)の説明 この資料は、まちづくり・むらづくり・地域づくりの代表される動きのひとつではないかという事で紹介しました。辰野町にも地域のために働いたり、知恵を出している地域もたくさんありますが「協働のまちづくり」という大目になると果たしてどうだろう、みんなが「協働のまちづくり」という目標のために進んでいるかな?と考えると疑問が残るところであります。特にアパートに住む人達とのつながりが問題だという事を歴代の区長からも聞いた事があり、軽井沢でも同じような問題がありアンケートを採ったという事ではありますが、この問題が解決されればまちづくりの大きなシンボルにもなっていくのではと感じています。 まちづくり委員会の中には、歴代の区長さん達もいらっしゃるので、良い知恵や具体的な解決策が出せばいいなと思っています。 今日ワークショップの中で課題に対する解決策を1つでも2つでも出せば思っていますのでよろしくお願いします。		

ワークショップ	<p>前回に引き続き、委員を2グループ（A・Bグループ）に分け、ファシリテーター（A：垣内委員長、B：牛丸委員）の進行によりワークショップを実施。</p> <p>テーマをAグループ「協働のまちづくりの課題を見つけよう」Bグループ「協働を理解するためには何が必要か？」とし、最後に両グループ作業結果を発表した。</p> <p>成果物は別紙1・2</p>
A委員	<p>〈Aグループ発表〉</p> <p>別紙1のとおり</p>
B委員	<p>〈Bグループ発表〉</p> <p>別紙2のとおり</p>
委員長	<p>協働ということを文書化したり、評価することは非常に難しい。道路や橋なら方法を考えればいいが、協働のなかの精神的な部分をどうするか。また、これまでのような縦割りの行政だけではできない部分をどうするかという問題がある。そうかといって何もしないわけにはいかない。</p> <p>「協働」という言葉も浸透したのか最近紙面等でも「まちづくり」や「地域づくり」というように「協働」という言葉をあえてつけない傾向にあるように感じます。また、支援金事業の影響でお金がつく、つかないによって判断されてしまっているようにも感じます。</p>
委員長	<p>今回は「今、何をすべきか」というテーマでワークショップを行います。</p>
事務局	<p>次回の委員会は6月30日（月）午後7時00分から行います。</p> <p>時間・会場が変更となりますのでご注意ください。</p>
副委員長	<p>閉会</p>

〈Aグループワークショップ結果〉

テーマ「協働のまちづくりの課題を見つけよう」

テーマを決めよう！



リーダーさんと一緒にやるよ！
(リーダーの養成)

推進リーダーの養成が必要

ボランティア的要素が地域の活性化につながる
考え方のPR ～ リーダーを養成する

立ち上げるためのリーダーが必要
まずは金額でないがあめ玉でスタートを考える
(基礎を固めるため)

区長会の活用が不十分
実践現場に一番近い区長に十分情報を提供すべき

みんなに参加してもらいたいなあ

住民の参加意欲を高める方策を見つける

協働のまちづくりに対する住民意識不足

制度の活用を周知徹底(検討)
支援金事業などがあるうちは十分に幅広く使うべきだ

不参加者の意見を聞く

町民の協働に対する意識が十分でない

PRの必要性とその方法

協働のPR
たつの町広報に協働のまちづくりページを継続的にもうけるべき

町民の理解を促す企画を知らせる
動機付けが必要
意識をもたせる方法

行政の窓口をもっと明確にさせる必要がある

NPO・企業などに定期的に情報提供
まだまだ協働が理解されていない

PRの必要性とその方法

各種事業の種類と開催回数を多くする

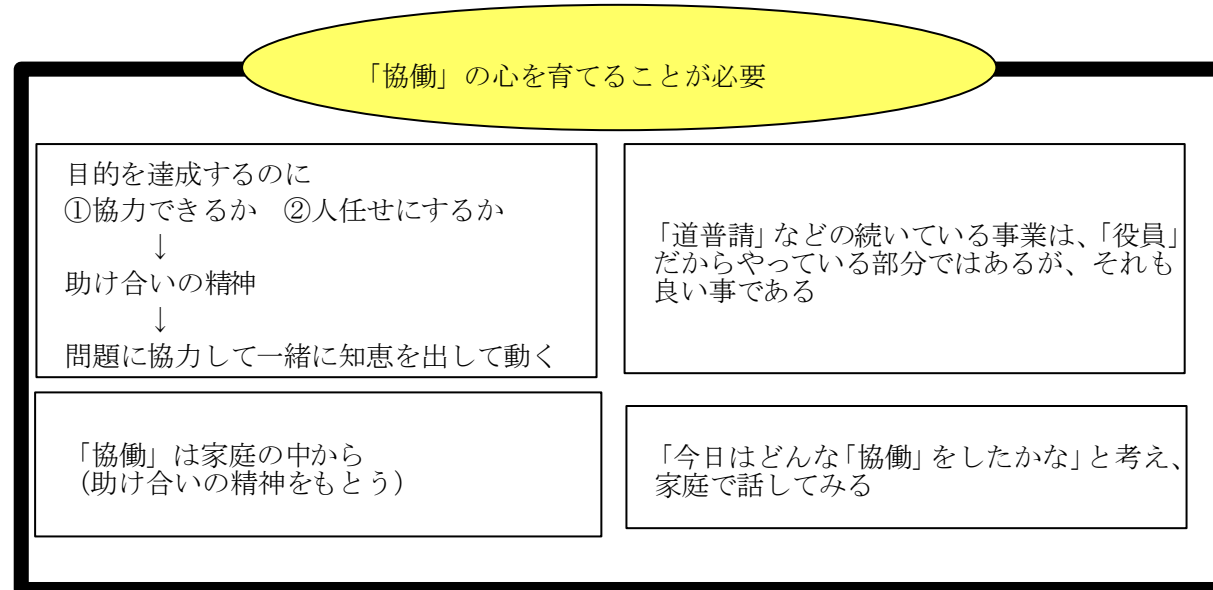
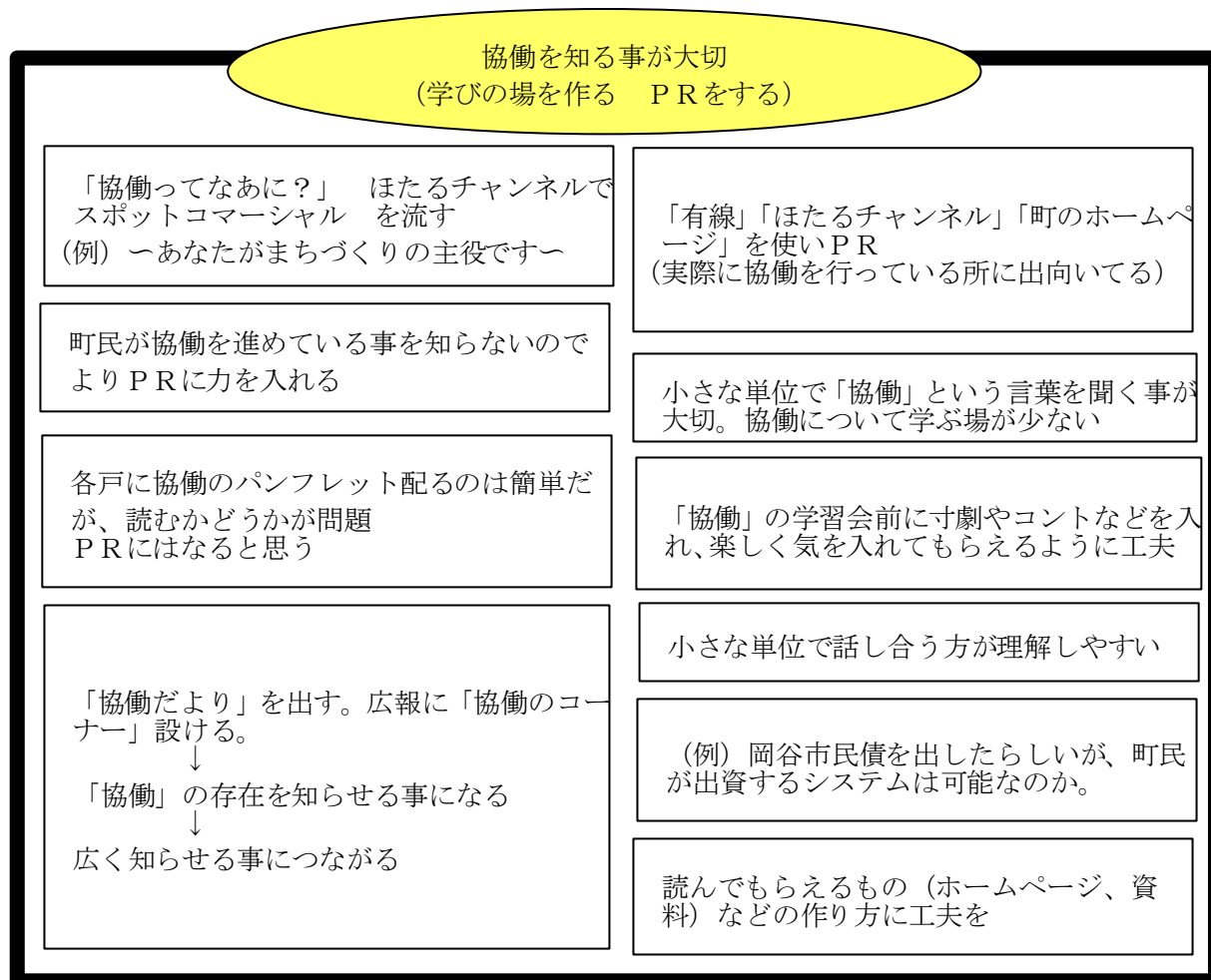
協働のまちづくりに対する住民の意識不足

人口増加に向けてアパートは歓迎すべき
その住民との協働をどのように進めるかを考え、協力し合うべきだ

地域コミュニティはすばらしい実例がたくさんあるがこれらをまとめること(連合会などの組織)が行われていない

〈Bグループワークショップ結果〉

テーマ 「協働のまちづくりを
理解するためには何が必要か？」



「協働」を理解する

心が広く美しいのも協働に関係する

「協働」とは、作業だけではない。「心」「精神」など形にあらわれないものがある

今までは「協働」というのは、町にお金がないから協働でやらないと進まないと理解していた。「結い（助け合い）」の精神こそ協働ではないか

協働には

①「働く作業」②「助け合い」の2つあることを知ることが大切

協働＝皆で働く作業の中で楽しみをつかむ

井戸端会議

「協働」とは何か理解する

行事などに「参加」することで「協働」を知る事と実際に自分も参画することになる

障害者と他の人が協力し合うには話し合いが必要

参加してもらうため、仲間作りを進める

どんな事でもまず参加することから始まる
でしゃばりではないことを理解する

町全体でやるテーマを作る。
辰野町では、いつでもどこでもやっている「協働」ということで、声掛け、花壇作り等がそれにあたる。

家庭の中でも子供や年寄りも参加するよう
声をかける

自分だけでやるのではなく、周囲の人に手伝ってもらおう。そして感謝の言葉を忘れない

周囲の人を引き込む
声をかけ、手伝ってもらおう中で「聞くことにより役だっている」という意識を持ってもらう。